【事業実績】

平成 31 年度の事業実績は以下のとおりである。

1．構築された安定化処理技術の普及・定着のための関連行事の開催

(1)　安定化処理技術の普及定着のための関連事業の開催

ア　ワークショップの実施

ワークショップは３会場で実施した。

① 別府大学(令和元年８月３日実施。内容：津波で被災した資料の救出と安定化処理に関する講演、被災民具資料の安定化処理、紙を素材とする資料の安定化処理方法に関する実習、質疑・応答、意見交換。参加者数 27 名）（図１）。

② 京都外国語大学（令和元年 12 月 21 日実施。内容：東日本大震災から８年が経過した段階での被災資料の状況に関する講義、陸前高田市立博物館における被災資料救出と安定化処理状況説明、アクリル画の安定化処理と課題についての実習及び講義、質疑・応答、意見交換、参加者数 23 名）（図２）。

③ 香川ミュージアム（令和２年２月 18 日から 19 日実施。内容：東日本大震災から８年が経過した段階での被災資料の状況に関する講義、陸前高田市立博物館における被災資料救出と安定化処理状況説明、水濡れした押し葉標本の応急処置及び被災民具の安定化処理をテーマとする実習、アクリル画の安定化処理に関する実習及び講義、質疑・応答、意見交換。(参加者数 27 名）（図３）。

■　ワークショップ参加者からの意見・感想（抜粋）

・安定化処理手順の解説を受けながら実習を行うことができたので、手順と目的をよく理解できた。
・被災資料再生のみならず、日常の資料管理についても有益な情報を得ることができた。
・被災した資料を水に浸して処理を進めるという処置方法は衝撃的であった。
・押し葉標本や民具については災害時、それぞれの機関での対処が可能であるが、アクリル画のような美術品については、特殊技術を有する機関でなければ実施することが困難であり、機能分担が必要。
・災害発生に備え、準備そして訓練が必要。
・職場に持ち帰り、災害への備えを進めたい。
・機会があればまた参加したい。
・南海トラフに対する備えとして大変勉強になった。
とても有意義なワークショップであった。
・多発する水害への備えを進めたい。

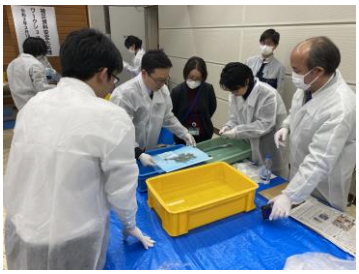

図１香川ミュージアムでのワークショップ

■　今後開催に当っての希望・留意点

・木を素材とする安定化処理方法について実習指導してほしい。
・音声案内やビデオなどによる詳細な説明があれば理解度が増す。

■　ワークショップ参加者の満足度

ワークショップ参加者の満足度は図２のとおりである。

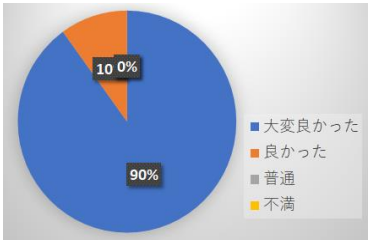

図２　ワークショップの満足度（香川ミュージアム）

イ　安定化処理技術の普及をテーマとする展覧会の開催

展覧会は以下の２か所で実施した。

図３　別府大学で行われた特別展

①　別府大学附属博物館本館「被災文化財の修復と保存」

（会期：令和元年 7 月 8 日～8 月 17 日）

東日本大震災で被災し、再生された文化財の展示と熊本地震で被災した文化財、九州北部豪雨で被災した文化財のパネル展示を実施し、被災資料再生の意義、再生に用いられた技術、今後の課題について解説した。

②　女子美術大学　「甦る。ふるさとの宝物」

（会期：令和元年 11 月２日～12 月 21 日）（女子美術大学杉並校舎　ロビー）

（会期：令和２年１月６日～３月 10 日）（女子美術大学相模原校舎　Joshibi　SPACE1900）

これまでに再生された染色資料の状況を実物資料とパネルを通し解説した。

ウ　安定化処理をテーマとする講演会及びシンポジウムの開催

①　開催場所：別府大學メディア教育・研究センター

②　実施日：令和元年８月４日

③　テーマ：「被災文化財の修復と保存－東日本大震災と九州の自然災害を通して－」

④　概要

東日本大震災から８年が経過した段階での被災地における安定化処理の実施状況について基調講演を行った後、自然史標本についての安定化処理実施状況、熊本地震の災害対応と文化財復旧の取り組み、九州北部豪雨等における文化財の被害状況とその修復について報告し、自然災害における被災文化財救出と再生について意見交換協議した。（参加者数 110 名）

図４　別府大学で行われた後援会・シンポジウム

■　講演会・シンポジウム参加者からの意見・感想（抜粋）

・それぞれの機関における取組みの状況を知ることができ、大変勉強になった。

・災害発生時には被災資料所有者と行政、各ボランティア団体等の連携が重要であることが分かった。

・最近、水害が多発しているという現状をふまえると、大津波プロジェクト実行員会の活動はきわめて重要である。

・三陸で行われている安定化処理や修復の状況が身近に感じられるようになった。

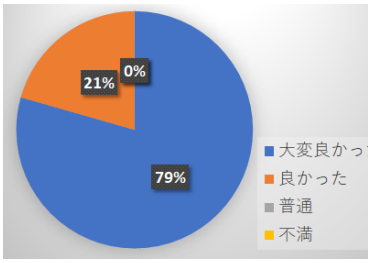

図５　講演会・シンポジウムの満足度（別府大学）

■　講演会・シンポジウム参加者の満足度

講演会・シンポジウム参加者の満足度は図５のとおりである。

エ　安定化処理技術普及のための取組に関する活動報告書の刊行

東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市及び市立博物館の被災状況、国登録漁撈用具の救出・再

生状況について概説し、国登録漁撈用具の三陸沿岸地域における漁撈史における位置づけについて解説した報告書を発行。A４版、オールカラー、3,000 部。

(2)　国際発信のための関連事業の実施

ア ICOM 京都における安定化処理技術の展示普及

令和元年９月２日～９月４日、国立京都国際会館において開催された ICOM 京都において、東日本大震災における岩手県太平洋沿岸部の博物館関連施設の被災状況、被災資料の救出と再生活動、海水とりわけ構築された安定化処理方法の概要、救出・再生・再生された資料の活用を円滑に進めるために構築された絆の形成、大津波プロジェクト実行委員会の活用状況について、日英２ケ国語によりパネル解説した。併せて、被災前及び安定化処理後の書籍類、古文書、昆虫標本の実物展示を行った。

図 6　ICOM 京都での安定化処理技術の展示の様子

イ　被災資料の救出と再生状況の概要をまとめた日英２ケ国語のリーフレット発行

東日本大震災における岩手県太平洋沿岸部の博物館関連施設の被災状況、被災資料の救出と再生活動、とりわけ構築された安定化処理方法の概要、救出・再生・再生された資料の活用を円滑に進めるために構築された絆の形成、大津波プロジェクトの活用状況をまとめた日英２ケ国語のリーフレット（A4 版８ページ、5000 部）を発行し、ICOM 京都パネル展示来場、支援特別展来場者、全国の博物館関係機関に配布した。

ウ　構築された安定化処理技術をまとめた DVD 製作

アクリル画及び染織資料の安定化処理技術について以下のホームページに掲載した。

動画：https://www.j-muse.or.jp/、報告分:http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

写真プリントの安定化処理方法、青い目の人形による海を越えた絆の形成と ICOM-ccの被災地での意見交換等に視点を当てた国際交流事業、様々な資料を対象に構築された安定化処理技術の概要版についてまとめた動画を製作した。

２．被災資料再生及び被災博物館再生支援のための各種事業の実施

(1) 被災文化財再生の現状と課題を確認し、支援するための関連事業

ア　被災地ワークショップ開催

陸前高田市仮設陸前高田市立博物館　（令和元年 11 月７日、８日、民俗文化財の伝播からみる三陸について、被災ガラス乾板の保存処置、適切な資料保管環境整備、水洗不能な資料に対する処置方法、被災写真資料の安定化処理、自然史標本の整理方法についての実習。質疑応答、意見交換。参加者数 40 名）

■　ワークショップ参加者からの意見・感想（抜粋）

・日ごろ、処理・修復を行う中で発生する疑問点や課題を解決する貴重な機会となった。今後も、定期的にこのようなワークショップを開催していただき、現地での安定化処理及び修復の現状や課題について、専門家との共有を図りたい。

・劣化が進んだ紙を素材とする資料の措置方法について研修の機会を設けてほしい。

・他機関での実施状況を見学する機会を設定してほしい。

■　今後開催に当っての希望・留意点

・現在、陸前高田市立博物館では紙製資料・民俗資料・写真資料等安定化処理及び修復を実施していることから、当該分野の専門家を招いて、処理方法の課題解決につながるワークショップの開催を希望する。

イ　支援特別展の開催

(1)　岩手県立博物館「被災資料再生の今―過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ―」（令和２年１月 11 日～２月 14 日。入場者数 4,165 名。）

被災文化財再生の現状、異臭や変色が発生した資料に対する対処方法、水洗困難な資料に対する取り組みの現状と今後の課題を、実物資料、写真、パネルを使って解説した。また、再生された古文書、村絵図、国登録漁撈用具、アクリル画、写真プリントの展示を通し、それぞれの資料が携えてきた未来へのメッセージを紹介した。

図７　支援特別展（岩手県立博物館）シ

■　支援特別展来場者からの意見・感想（抜粋）

・文化財再生・保存に加え、資料の研究まで深められている点、感銘を受けた。
・被害にあった資料を生き返らせる高度な技術が開発されていることに感動した。
・2011 年に関西の大学で被災した文書の保存処理を行いました。その際危惧した有機物の影響、その後のメソッド化された対策法を知れてよかった。
・大変なご苦労があったことを知り、頭が下がる。自然災害が頻発する昨今、この技術は貴重な人類の宝だと思う。
・被災資料がもっと沢山かと思いましたが少なかった。

■　来場者の満足度

支援特別展来場者のアンケート結果は図８のとおりである。

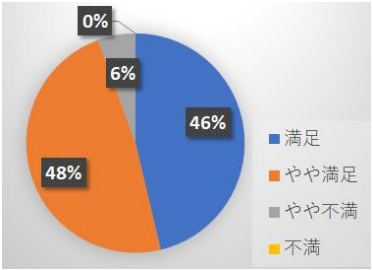

図８　支援特別展（岩手県立博物館）の満足度

(2)　陸前高田市コミュニティホール「ずっと ずっと ふるさと 陸前高田　―海と貝のミュージアムから救出された貝たち―」（令和２年２月８日～12 日。入場者 627 名。）

■　支援特別展来場者からの意見・感想

・陸前高田市立博物館や海と貝のミュージアムにおける被災資料救出と再生にたくさんの方々が支援していただいていることに大変感激した。
・今後の復元活動に更なる期待をしたい。

図 9　支援特別展（陸前高田市コミュニティホール）

・当市にまつわる貴重な貝類標本の存在を知る貴重な機会となった。これまで続けられてきた安定化処理及び修復について、その現状と課題についても知ることができ、非常に有意義な展覧会であった。
・全国の多くの方々の支援をいただき、陸前高田市の資料が再生されている様子をよく理解できた。
・保管している資料の様子を新しい博物館で見たい。

■　開催に当っての希望・留意点
・今後も被災文化財の再生を頑張ってほしい。
・貝類標本以外の自然史資料が、どのような被災状況で、現在までにどのように安定化処理・修復がされてきたのかを知ることのできる展覧会を開催してほしい。

ウ　支援講演会・シンポジウムの開催
陸前高田市コミュニティホール「よみがえる文化財と博物館の復興」（図 10）
（令和 2 年 2 月 9 日。入場者 177 名。）

■　支援シンポジウム参加者からの意見・感想（抜粋）
・これまでに行われてきた被災文化財再生の道のりを知ることができた。これまで処理・修復が完了した資料について、また現在直面している技術的な課題について、専門的な角度から学ぶことができた。また、“奇跡の海”を背景に発展してきた漁猟用具について、その重要性と背景にある自然環境について、他では聞くことのできない貴重な講演を拝聴することができ、大変有意義なシンポジウムであった。

図 10　支援シンポジウム（陸前高田市コミュニティホール）

■　開催に当っての希望・留意点
・安定化処理及び修復についての現状と課題、専門的な内容の講演も必要であるが、今後は修復された文化財一点一点に焦点を当て、それらの再生過程をより詳しく知ることのできるシンポジウムも開催してほしい。

３．新たな大規模自然災害に備えた環境整備
(1) 連絡・連携体制の構築・安定化処理技術の開発に向けた環境整備
ア　安定化処理の取り組むべき課題整理のための技術検討会開催
イ　文化財等防災・減災研究会の開催
＊コロナウイルスのためいずれも開催を見合わせた

４．事業推進環境整備
(1) 事業広報用共通ポスター・リーフレットの製作
ア　上半期事業概要ポスター：2,000 部、リーフレット：20,000 枚
イ　下半期事業概要ポスター：2,000 部、リーフレット：20,000 枚
ウ　支援特別展ポスター　　：　400 部、リーフレット：10,000 枚
(2) 実行委員会、事業推進会議等の開催（４回）